

年内入試の動向

③ 総合型選抜の実態から

リクルート 進学総研

鹿島 梓

■ 概要

詳細な書類審査と時間をかけた丁寧な面接等を組み合わせることによって、
入学志願者の**能力・適性**や**学習に対する意欲、目的意識**等を**総合的に評価・判定**する入試方法

■ 実施時期

入学願書受付を令和5年9月1日以降とし、その判定結果を令和5年11月1日以降に発表する

■ 留意点

① 入学志願者自らの意志で出願できる公募制という性格に鑑み、「見直しに係る予告」で示した入学志願者本人の記載する資料*を積極的に活用する。

* **入学志願者本人が記載する活動報告書、大学入学希望理由書及び学修計画書**等。

② 総合型選抜の趣旨に鑑み、合否判定に当たっては、**入学志願者の能力・意欲・適性等を多面的・総合的に評価・判定**する。なお、高度な専門知識等が必要な職業分野に求められる人材養成を目的とする学部・学科等において、総合型選抜を実施する場合には、当該職業分野を目指すことに関する入学志願者の**意欲・適性等**を特に重視した評価・判定に留意する。

③ **大学教育を受けるために必要な知識・技能、思考力・判断力・表現力等**も適切に評価するため、調査書等の出願書類だけではなく、「見直しに係る予告」で示した評価方法等*又は**大学入学共通テスト**のうち少なくともいずれか一つを必ず活用し、その旨を募集要項に記述する。

* 例えば、**小論文等、プレゼンテーション、口頭試問、実技、各教科・科目に係るテスト、資格・検定試験の成績**等

① 当該大学での学修・卒業に必要な能力・適性等の判定

- ・各大学が主体的に実施
 - ・一定のルールをガイドラインとして定めること
 - ・卒業認定・学位授与の方針、教育課程編成・実施の方針と連動した入学者受入れの方針策定の必要性
- ※選抜という視点に加え、大学と入学者との望ましいマッチングを図る視点も重要

② 受験機会・選抜方法における公平性・公正性の確保

- ・同一選抜区分での公平な条件での実施、入試情報の公表（形式的公平性の確保）
- ※同一日・同一試験問題による選抜のみでなく、明確な選抜基準の下、多様な選抜資料を活用することを含む
- ・地理的・経済的条件、障害のある受験者への合理的配慮 等（実質的公平性の追求）

③ 高等学校教育と大学教育を接続する教育の一環としての実施

- ・高大の円滑な接続（生きて働く知識・技能、未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力等の涵養を目指す教育改革に資する選抜）
- ・入学志願者への教育上の配慮（教科・科目等を変更する場合は2年程度前の告知の必要性、入試日程等の遵守）

総合型選抜は本当に多面的・総合的になっているか？

-文部科学省 大学入学者選抜の実態の把握及び分析等に関する調査研究（令和5年2月）より

<調査概要>

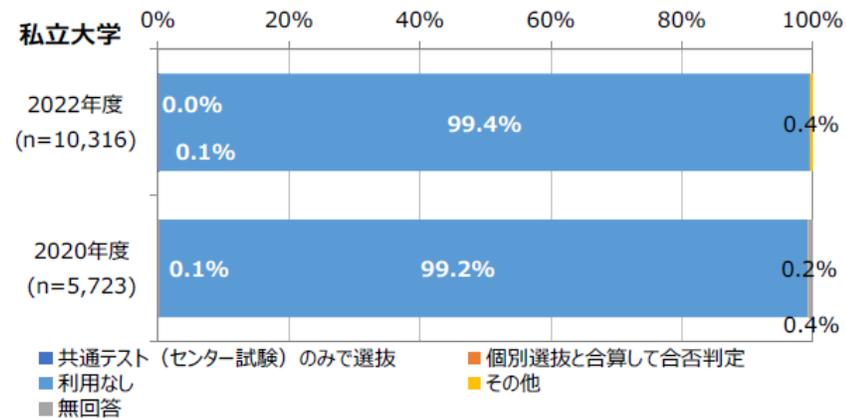
- 調査目的：大学入試改革については、文部科学大臣の下に設置した「大学入試のあり方に関する検討会議」において、これまでに指摘された課題や過去の政策決定の検証などを踏まえて検討が進められ、令和3年7月に「大学入試のあり方に関する検討会議 提言」がなされたところである。
当該提言においては、実証的なデータやエビデンスに基づく政策決定の重要性が指摘されており、大学入学者選抜方法の多様化・複雑化が進む中で、国としての確な現状分析に基づいて検討を進めるためにも、国内の全大学・短期大学が現在実施している入学者選抜の状況について、最新の動向を網羅的に把握する必要がある。
以上を踏まえ、各大学が実施する大学入学者選抜について、選抜区分毎に詳細を把握し、設置主体別等の状況分析を行う。
- 調査期間：令和4年7月14日～令和4年8月31日（遅れて回答のあった大学等も含め、令和4年11月29日までの回収分を集計）
- 調査方法：eメールによる調査票の発送及び回答票回収
- 調査対象：全大学（学生募集停止の大学を除いた、国立大学、公立大学、私立大学、公立短期大学、私立短期大学の計1,071大学）
- 有効回答数：1,071大学（76,113選抜区分）（回収率：100.0%）

私立の年内入試では共通テストはほぼ利用されていない

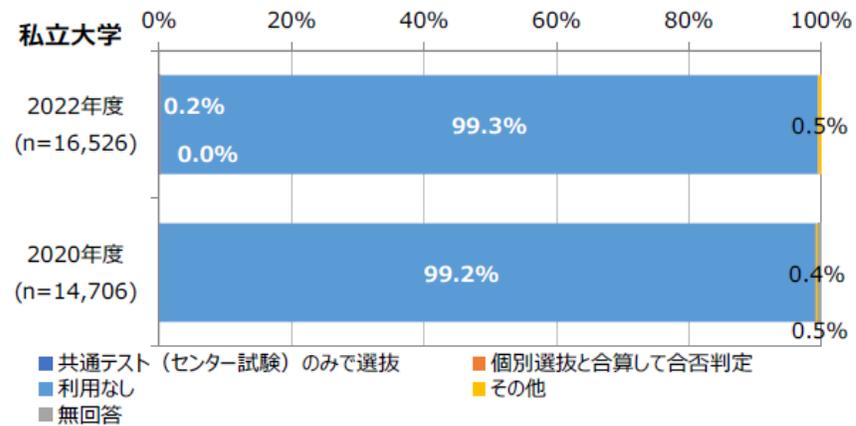
<データポイント>

- (左) 私大の総合型選抜における共通テスト利用は「利用無し」が99.4%で、ほぼ利用なし
- (右) 私大の学校推薦型選抜における共通テスト利用は「利用無し」が99.3%で、ほぼ利用なし

共通テストの利用状況（私大・総合型選抜）



共通テストの利用状況（私大・学校推薦型選抜）

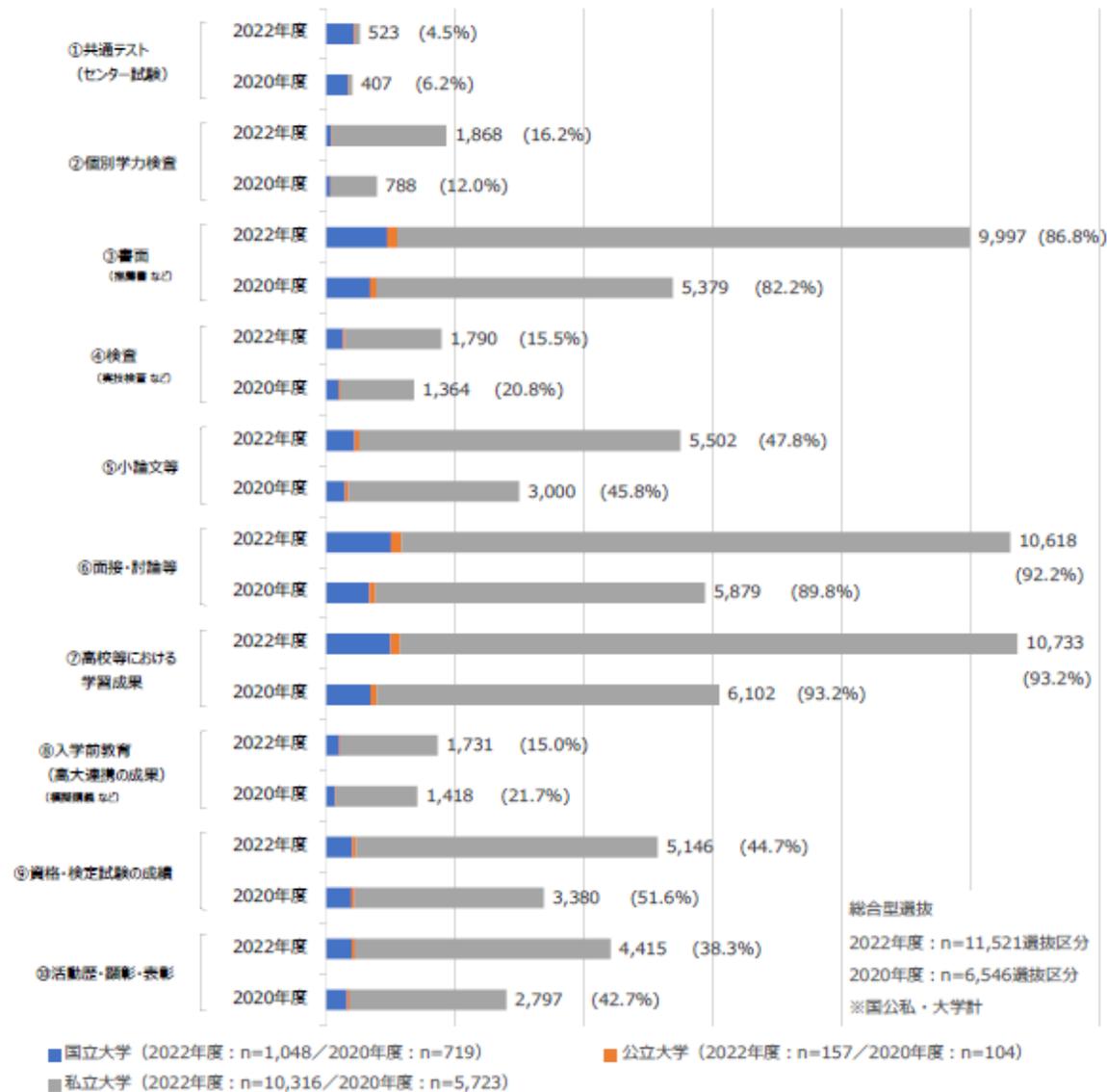


総合型選抜における「学力把握」は書面・面接・評定等の従来型評価が主流

<データポイント>

- 総合型選抜においては「書面」「面接・討論」「高校等における学習成果」が学力評価の中心
- 2020年比でも同項目が増加傾向

総合型選抜における
学力把握措置 (MA)

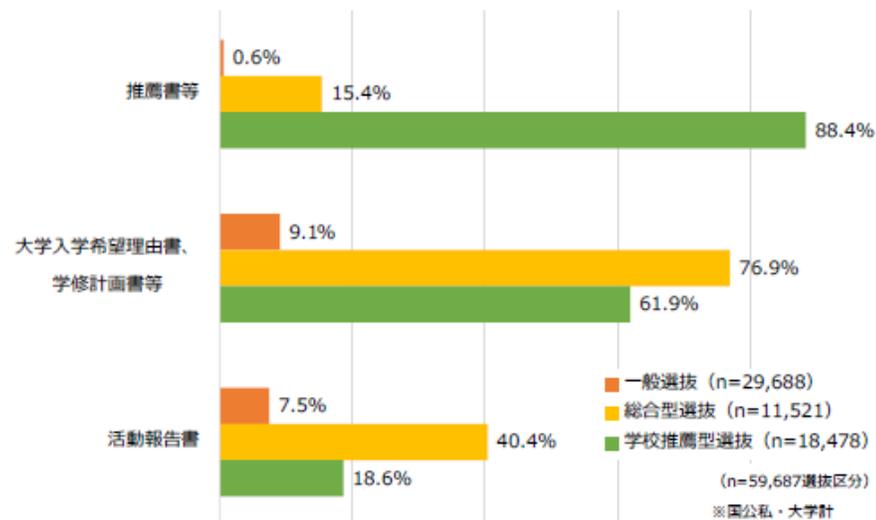


学力検査以外に考慮する資料等の利用率では総合型選抜が多様な要素を利活用

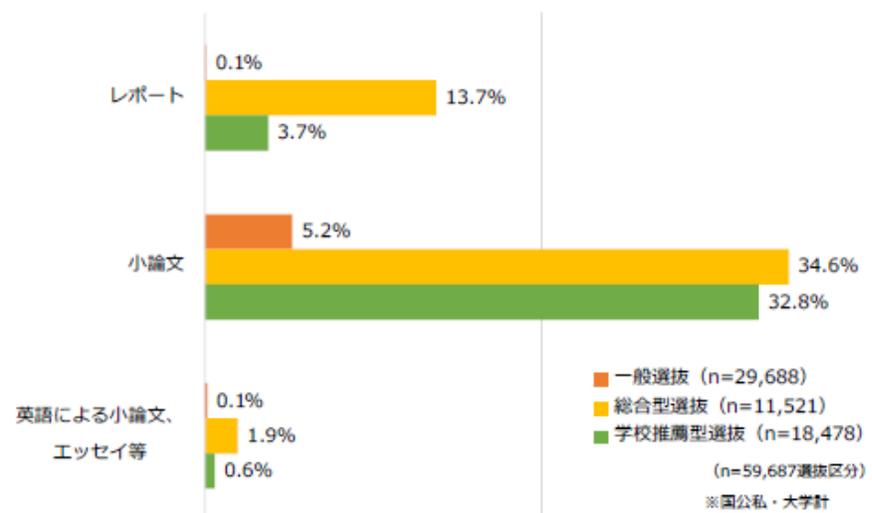
<データポイント>

- 大学入学希望理由書、学修計画書等：一般選抜9.1%、総合型選抜76.9%、学校推薦型選抜61.9%
- 活動報告書：一般選抜7.5%、総合型選抜40.4%、学校推薦型選抜18.6%
- レポート：一般選抜0.1%、総合型選抜13.7%、学校推薦型選抜3.7%
- 小論文：一般選抜5.2%、総合型選抜34.6%、学校推薦型選抜32.8%

学力検査以外に考慮する資料等の利用率（書面）（MA）



学力検査以外に考慮する資料等の利用率（小論文等）（MA）

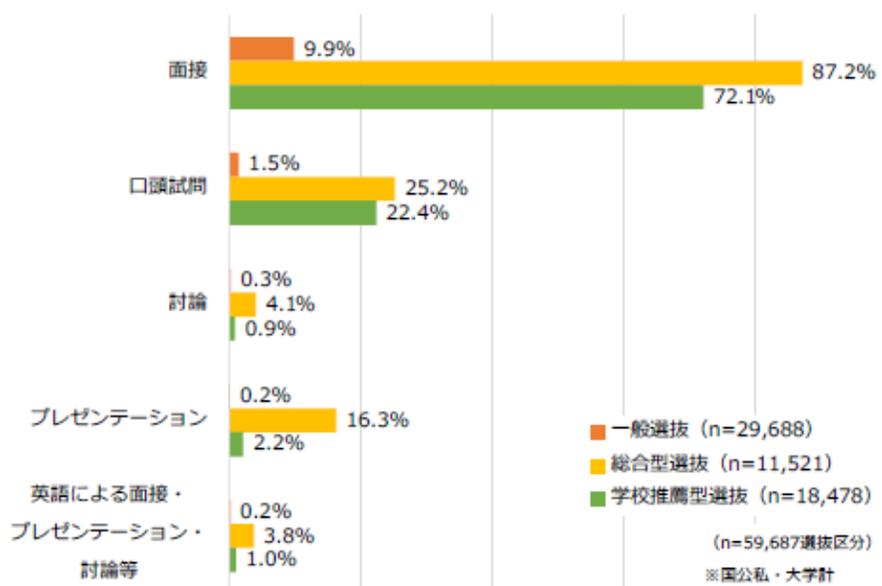


面接・討論・プレゼンテーション、探究学習の成果等は総合型選抜での利用が多い

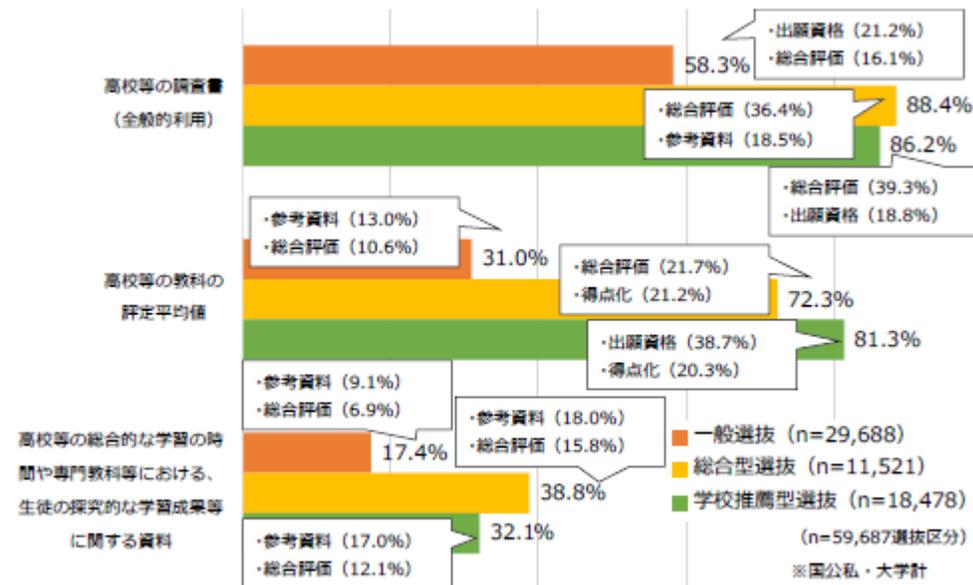
<データポイント>

- 面接：一般選抜9.9%、総合型選抜87.2%、学校推薦型選抜72.1%
- 討論：一般選抜0.3%、総合型選抜4.1%、学校推薦型選抜0.9%
- プレゼンテーション：一般選抜0.2%、総合型選抜16.3%、学校推薦型選抜2.2%
- 調査書：一般選抜58.3%、総合型選抜88.4%、学校推薦型選抜86.2%
- 調査書のうち評定平均値：一般選抜31.0%、総合型選抜72.3%、学校推薦型選抜81.3%
- 探究的な学習成果等に関する資料：一般選抜17.4%、総合型選抜38.8%、学校推薦型選抜32.1%

学力検査以外に考慮する資料等の利用率（面接・討論等）（MA）



学力検査以外に考慮する資料等の利用率（高校等における学習成果）（MA）



まとめ

<まとめ>

- ▶国公立全体の出抜区分は、一般出抜と年内入試が半々
- ▶大学全体について出抜区分ベースで見ると、2020年度→2022年度で一般出抜の割合が2.5pt低下、学校推薦型も3.1pt低下する一方で、総合型出抜の割合は5.9pt上昇し、全体の約2割を占める
- ▶入学者数別で見ると、大学全体では一般出抜49.7% 総合型出抜 13.6% 学校推薦型出抜 36.7%で、年内入試と年明け入試がほぼ半々の割合。国公立大学は一般出抜が7～8割を占める一方で、私立大学は年内入試の比重が高く、58.3%にまで上昇する
- ▶私立大学の年内入試では共通テストはほぼ使われておらず、「学力把握」は書面・面接・評定等の従来型評価が主流
- ▶大学入学希望理由書、活動報告書、学修計画書、レポート、小論文、面接・討論・プレゼンテーション、探究学習の成果等は総合型出抜での利用が多く、他方式に比べて多様な評価方法が講じられていると言える



スタディサプリ

高校・大学の取り組み事例等はHPに掲載しています。
「リクルート進学総研」

リクルート進学総研

